

旭労災病院ニュース

病院情報誌

増刊号

令和元年 09 月 吉日発行

発行所: 旭労災病院

〒488-8585

尾張国中平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

急性感音難聴(突発性難聴)について

耳鼻咽喉科部長

清水 崇博



急性感音難聴は、その疾患名のとおり急性に発症する感音難聴の総称です。

急性感音難聴をきたす疾患としては、突発性難聴や急性低音障害型感音難聴、メニエール病のように原因不明の疾患、外リンパ瘻、音響外傷のような外因によるもの、またムンプス難聴のようなウイルス感染によるものなどが挙げられます。従来、種々のアプローチによる研究が行われてきましたが、治療法未確立の疾患も多く、また、難聴により QOL の著しい低下を引き起こすことにより、診断法・治療法の開発が期待されている疾患の一つです。

突発性難聴は急性感音難聴の代表的な疾患の一つであり、特に一側性高度感音難聴の原因として最も高頻度に認められます。症状としては突然の難聴で「文字どおり即時的な難聴、または朝、目が覚めて気付く様な難聴」と診断基準の参考事項に定義されています。軽症例では難聴の訴えがなく、耳鳴や耳閉感などが症状となることがあります。突発性難聴は、現在までに明らかな原因は特定されておらず、種々の病態が入り混じっていると考えられています。循環障害やウイルス感染、自己免疫などが示唆されています。発症は人口 10 万人あたり 60.9 人と推定され、高齢者に多く 60 代での発症が最も多く認められます。性差はみられません。

突発性難聴の治療に関しては、その急性期にはステロイド剤を中心とする薬物治療が行われています。ステロイド全身投与の有効性に関しては、現時点でエビデンスは確立していないものの、多くの文献で無治療よりも良好な聴力改善を認めることが報告されていること、他に有効な治療法が確立していないことより、実質的には標準治療となっています。また、近年では、ステロイド鼓室内投与が、初期治療、あるいは初期治療で改善のみられなかった症例のサルベージ治療として用いられています。ステロイド以外にも血管拡張薬、代謝改善薬、ビタミン製剤など様々な治療が実施されていますが、大きな差は認められていません。

一方で、早期治療に関しては発症 7 日以内に治療を開始すると有意に聴力予後がよいことが報告されています。「急性感音難聴診療の手引き 2018 年版」において、推奨グレード A (強い科学的根拠があり、行うよう強く勧められる) に位置付けられています。

予後としては約 1/3 の例では治癒するものの、1/3 の症例は部分回復に留まり、1/3 の症例では不変であることが報告されています。

当院では難聴の診断に、聴力検査（純音聴力検査、ABR 等）、画像検査（Xp、CT、MRI 等）、血液検査（ウイルス抗体等）など様々な検査を行っています。治療は主に入院管理でのステロイド全身投与を行っています。症例によってはステロイド鼓室内注入も行う場合があります。

突発性難聴以外にも難聴をきたす疾患は数多くあります。特に急性発症の難聴については、早期治療が重要である場合があります。難聴でお困りの患者様がみえましたら、ご紹介いただけましたら幸いです。

参考：急性感音難聴 診療の手引き 2018 年版

突発性難聴診断基準

主症状

1. 突然発症
2. 高度感音難聴
3. 原因不明

参考事項

1. 難聴（純音聴力検査での隣り合う 3 周波数で各 30dB 以上の難聴が 72 時間以内に生じた）
 - (1) 急性低音障害型感音難聴と診断される例を除外する
 - (2) 他覚的聴力検査またはそれに相当する検査で機能性難聴を除外する
 - (3) 文字通り即時的な難聴、または朝、目が覚めて気づくような難聴が多いが、数日をかけて悪化する例もある。
 - (4) 難聴の改善・悪化の繰り返しはない
 - (5) 一側性の場合が多いが、両側性に同時罹患する例もある。
2. 耳鳴
難聴の発生と前後して耳鳴を生ずることがある
3. めまい、および吐気・嘔吐
難聴の発生と前後してめまい、および吐気・嘔吐を伴うことがあるが、めまい発作を繰り返すことはない
4. 第 8 脳神経以外に顕著な神経症状を伴うことはない

診断の基準：主症状の全事項を満たすもの

(厚生省特定疾患「突発性難聴調査研究班」，1973)

(厚生労働省「難治性聴覚障害に関する調査研究班」，2015 年改訂)